

ハイウェイマン

2004(平成16)年9月20日鑑賞(ユウラク座)



監督＝ロバート・ハーモン／出演＝ジム・カヴィーゼル／ローナ・ミトラ／フランキー・フ
エイソン／コルム・フィオール（日本ヘラルド映画配給／2003年アメリカ映画／82分）

……「カー・スリラー」「ロード・スリラー」というジャンルがあることがよくわかるスゴイ映画。妻をひき殺された主人公が操る68年型プリマス・バラクーダ VS. 「Monster・カー」72年型キャデラック・エルドラドとの「対決」は迫力満点。そこからからむ美女もステキで、十分満足できる映画。そして、ドライビングテクニックに興味のある人は必見！

「ロード・スリラー」「カー・スリラー」とは？

世の中にはいろいろと珍しい言葉があるもの。この映画のような、「車同士の激突」をテーマにした映画を「ロード・スリラー」とか「カー・スリラー」と言うらしい。

そしてパンフレットによれば、この映画を監督したロバート・ハーモンのデビュー作『ヒッチャー』（86年）は、殺人ヒッチハイカーの恐怖を描いたもので、「80年代の最も怖い映画」と評され、ステイヴン・スピルバーグ監督の『激突！』（72年）と並ぶロード・スリラーの最高傑作とのこと。

そして、この「心臓急停止映画」から18年後に、再びハイウェイを舞台とした殺人スリラーにチャレンジした、ファン待望の一作がこの映画とのこと。なるほど、うまいこと書くものだと感心……。

話は単純

「ロード・スリラーには理屈はいらない。ハデなアクションさえあればいい！」というわけで、この映画には特に難しいストーリーがあるわけではない。若い女

性ばかりをひき殺す悪の主人公ファーゴ（コルム・フィオール）が乗るモンスター・カーは、72年型キャデラック・エルドラド。

映画の冒頭には、ショッキングなシーンが登場する。のどかな田園の中にぽつんと建つ一軒のモーテルから買い物に出て道端にたたずむ若い女性を、猛スピードで走ってきたキャデラックが、明らかに意識的にはね飛ばしていった。その直前、これはヤバイと感じてモーテルから走り出した夫のレニー（ジム・カヴィーゼル）だったが、到底ムダ。はね飛ばされた奥さんは、当然即死。

復讐の鬼と化したレニーは、以降5年間にわたって、モンスター・カーとそれに乗るファーゴを、愛車である68年型プリマス・バラクーダで追跡し、激突するというのがこの映画のストーリーだ……。

第2の犠牲者は？

第2の犠牲者は、この映画のヒロインであるモリー（ローナ・ミトラ）の友人のアレックス（アンドレア・ロス）。コーラスの帰り、モリーを送っていたアレックスの車は、片目ライトのキャデラックから追跡された挙げ句、トンネルの中で大きな交通事故に巻き込まれた。

何とかそれを免れ、応援を求めためバックしたアレックスの車は、再びキャデラックに襲われ、アレックスはひき殺されたうえ、モリーにも大きな危険が……。

しかし、モリーが写真をとられている間に別の車が現れたため、キャデラックは退散し、何とかモリーは難を免れることができたが……。一体このキャデラックは、何を目的としているのだろうか……？

もう1人の主人公は事故調査官

悲惨な状態の事故現場に到着したのは、事故調査官のマクリン（フランキー・フェイソン）。かなりプロフェッショナル風（？）で、隠れていたモリーを発見したのも、このマクリン。また、愛車の中で無線を傍受して、現場に駆けつけていたレニーに注意したのも、このマクリン。マクリンは、この後レニーの助手（？）のような役割で……？

レニーはこの事故で生き残ったモリーへの接触をはかり、犯人は必ず生き残ったモリーを殺しにくると告げて、モリーに犯人との「対決」を「要請」したが……。

第3の犠牲者は……

第3の犠牲者は、コーラス仲間の男性のレイ・ブーン（ゴードン・カリー）。前回はアレックスが送ってくれたが、アレックスがいなくなった今、今度はレイ・ブーンが夜道を送ってくれた……。傷心のモリーを気づかって、トンネルを避けたレイ・ブーンの手車だったが、その後方からあつという間にキャデラックに猛スピードで激突されたレイ・ブーンの手車は、転覆させられたうえ、ワイヤーで結びつけられ、2人を中に乗せたまま引きずられて……。これではたまらない。そのうち手車は爆発……。

そんなところに登場したレニーは、再びキャデラックと対決し、何とかモリーだけは救出したが……。

キャデラックに乗る謎の男は？

モリーとレニーとの対話の中、子供の頃、車の事故で両親を失ったことがトラウマとなって運転恐怖症になっているモリーの人物像が明らかとなっていくが、それはあくまでレニーとファーゴとの対決を盛り上げるための、ちょっとした伏線にすぎない。

あくまで話のメインは、レニーとファーゴとの対決。もっとも、このモリーの女性としての魅力は相当なもの。

『メラニーは行く！』（02年）、『ライフ・オブ・デビッド・ゲイル』（03年）等にも出演している正統派美人で、この映画でもなかなかの活躍！

それはともかく、謎の男ファーゴは、レニーの妻をはね飛ばして殺害した後、レニーの猛追跡を受けて、レニーから大怪我をさせられていた。もっともその結果、レニーも前科者に……。

こんな2人の因縁のもとで、レニーは5年間ずっとファーゴを追跡していたわけだ。

ファーゴは、映画の前半では全く顔を見せない。見えるのはキャデラックの姿ばかり。後半になってやっと見せるその姿は、大幅に肉体改造したもので、義手義足で全身を固め、その義手でキャデラックを魔法のように操るヘンな男。もちろん歩くこともできず、車椅子生活だ。

この全身の怪我は、レニーによって受けたものだから、ファーゴのレニーに対する恨みも相当なもの……。

クライマックスでの車同士の激突は？

車の運転テクニックに興味のある人には、この映画は必見！ 急加速、急スピン、急停車、その他のドライビングテクニックはものすごそう……。

赤いワンピースを着たモリーが倒れこんだ状態で後ずさりするのを、今にもひき殺すかのように、等間隔で追っていくキャデラックのドライビングテクニックも、結構難しそう。

もっとも男の観客の多くは、ソソを乱しながら、必死の形相でキャデラックから離れようともがくモリーの姿に、つい目がいってしまうだろうが……。

おっと、スケベな感想は横において、パワフルで予想もつかないような車同士の激突を十分堪能しよう……。

レニーを演ずるのはあの『パッション』の……？

04年5月に観た『パッション』はイエス・キリストの受難を描いたもので、本物の衝撃作品。そして、この『パッション』でイエス・キリストを演じたジム・カヴィーゼルの姿は、一生忘れないと言っても過言ではないほど、心に残るもの。

俳優にとっては、果たしてそれがいいことか、悪いことかは微妙なところだが、この映画で観るジム・カヴィーゼルは、当然のことながら見事なほどイエス・キリストのカゲは引きずっていなかった。これほど「変身」できる俳優稼業のすごさには、ただただ感心！

2004(平成16)年9月21日記